

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和5年12月3日(日)
会場：大宮ソニックシティ
テーマ：Let's connect!
サブテーマ：臨床検査技師になってよかった
～ 人との出会い・検査との出会い～



「初めての学会発表」

第51回 埼玉県医学検査学会
学術部 工藤 淳子

私が初めて学会発表したのは20年以上前になります。当時はPowerPointを使用した発表がようやく浸透し始めた頃でスライド投影機を使った発表も行われていました。若い世代の方は見たこともないかも知れません。スライドが1枚ずつフィルム状になっていて発表する順にケースに並べて投影機でスクリーンに映し出します。発表で上手く話せるかよりもスライドの向きは大丈夫か、並べる順番を間違えていないかの不安の方が大きかった記憶があります。現在は、PowerPointで作成したスライドをPCを介してそのままスクリーンに映せるので、大分発表は楽になったと思います。

初めて学会発表をする際にまず何から始めたら良いのだろうと考えてしまいますが、自分が学会を通して何を伝えたいか、伝えたい目的(背景)は何なのかを念頭において内容を整理し、抄録作成、スライド作成を行っていくと良いと思います。演題テーマを先に決めてしまうと発表内容と乖離してしまうことがあるので、発表したい内容に沿ってテーマを決定した方が良いでしょう。

学会発表は発表することが目的ではなく聴講者に自分の成果を見てもらうのが目的です。聴講者が見やすいスライドの作成を心がけると良いでしょう。使う色はある程度統一し、絵や画像を使用したり、アニメーション機能を使用したり視覚的な表現も大切です。

スライドは抄録に記載した「目的」「方法」「結果」「考察」「結語」の内容がわかり易く伝わるように作成していきます。誤字脱字がないかなども注意して仕上げます。PowerPointの使い方が分からない場合は経験のある先輩などに指導・助言をいただきながら、機能を上手く使って作成していくことが大切です。

県学会は和やかな雰囲気の中で初めて発表する方にとっては良い経験の場であり、登竜門的な存在として経験を積むチャンスです。是非演者としてご参加いただければと思います。

要である。本研修会で学んだことを他職員へ水平展開し、自施設全体の啓発活動の一助となれば幸いである。

(文責：富井貴之)

テーマ 実症例から学ぶ。一般検査室のアプローチ方法。

主催 一般検査研究班

実施日時：2023年2月21日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師：小針奈穂美（埼玉医科大学病院）

柿沼 智史（川口市立医療センター）

中川 禎己（小川赤十字病院）

参加人数：会員185名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 渡邊祐樹 小針奈穂美 中川禎己

松本実華 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回のWebによる研修会は、3名の講師による毎年恒例となっている症例検討会であった。

症例1では、小針氏より、短期間で急激な炎症像を呈した脳室炎についての症例報告があった。脳室炎は、病原となる細菌やウイルスが、脳実質に突発的または多臓器での感染巣からの侵入などにより、発熱や嘔吐、意識障害などの重篤な症状を引き起こすことで知られている。また、病原がウイルス性か細菌性かで治療が大きく異なるため、それらを鑑別するための髄液細胞数は、緊急性が高く、患者の予後を左右する重要な検査である。そのため髄液細胞数は、正確且つスピーディーな報告が求められ、正しい知識と手技が必要となる。

現在では、肺炎球菌ワクチンやヒブワクチンの普及により、細菌性髄膜炎が激減したため、症例のように、細胞数が数十万となるような髄液検体が提出されることはほとんどなくなった。しかし、髄液細胞数の迅速で正確な結果報告の重要性を改めて再認識できた症例であった。

症例2では、柿沼氏より、尿沈渣中にクリプトコッカスが認められた症例について報告があった。尿中に出現する酵母様真菌のほとんどは、免疫力低下などで発症することが知られているカンジダである。クリプトコッカスは、鳩の糞中に多く存在し、真菌性髄膜炎を発症することで知られ、墨汁染色により厚い莢膜の有無を観察することが確定診断となる。症例の尿沈渣は、出現した酵母様真菌をよく観察することで莢膜を確認できたとのことであったが、鑑別には、鏡検時の工夫や熟練を要するものと考えられた。しかし、尿沈渣中のクリプトコッカスの出現は、真菌性髄膜炎の早期診断に繋がる有用な臨床情報となり得るため、今後さらに容易に鑑別が可能となる新たな染色方法などを検討する必要性があると感じた。

症例3では、認定穿刺液細胞検査技師を取得している中川氏より、穿刺液中に腺癌細胞が認められた症例について、メイ・ギムザ染色した画像を交えて報告があった。計算盤上での細胞は、核構造やクロマチン増量などを観察するには限界があるため、必要に応じて、メイ・ギムザ染色を実施し、血液学的に細胞を観察することが重要である。本来、一般検査室では細胞数のカウントを行い、病理検査室では細胞の良悪の鑑別をするのが業務であるとの固定概念があったが、中川氏の施設では、一般検査室でそのすべてを行い、病理検査のスクリーニング的な役割を担っているとのことであった。穿刺液中には、白血球の他に、大食細胞や中皮細胞など、さまざまな細胞が出現するため、鑑別には困難を要するが、核構造やクロマチン増量の他に、細胞コントラストなども鑑別ポイントの一つになる、と画像を用いての説明があった。穿刺液の症例発表は今回が初めてであったが、中川氏の説明は非常に分かりやすかった。一般検査分野における認定制度には他にもさまざまな制度がある。自らのスキルアップを目指し、そのスキルを業務に活かすことが診断と治療に繋がることを再認識できた。

今回の3症例を始め、日常業務におけるその多くは、一般検査室だけでは確定診断に至らないケースが多い。そのため、普段から細菌検査室や病理検査室との連携が保たれていることが重要であり、それらが臨床診断に繋がる重要なアプローチになると考えられた。

(文責：室谷明子)

テーマ **亜鉛の有用性**

主催 血清検査研究班

実施日時：2023年2月22日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：基礎教科－20点

講 師：中尾 友作（株式会社 シノテスト）

参加人数：会員132名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 富田耕平 岡倉勇太 大坂圭司 飯山恵

研修内容の概要・感想など

今回は微量元素の亜鉛をテーマに「亜鉛の有用性」について講演を行った。講演は亜鉛の基礎的な内容から始まり、実際の症例を交え、病態と血清亜鉛値の変動までの幅広い内容であった。

亜鉛は必須微量元素の1つであり、生体内含有量は約2gと鉄に次いで多い。タンパク質の構造維持や酵素の補因子として働き、生理機能において重要な役割を担っている。亜鉛は食事から摂取され、そのうち30～40%が吸収される。主に肉類や魚介類に多く含まれ、牡蠣には100gあたり13.2mgと亜鉛の含有量が多い。血中ではアルブミンや α 2マクログロブリンなどのタンパク質に結合し、肝臓から各種臓器に輸送される。生体内の分布は、筋肉が約60%、骨が約30%と大半を占める。

近年、亜鉛欠乏症状を呈する患者の数が増加傾向にある。その要因は、摂取不足や吸収不足、排泄過多などが挙げられる。亜鉛欠乏症は診療指針2018より血清亜鉛の基準値が80～130 μ g/dLと定められており、60 μ g/dL未満を亜鉛欠乏症とする。血清亜鉛値の低下した状態が持続すると2週間以内に症状が出現する。症状は味覚障害、食欲不振、皮膚障害、成長発育障害など多様である。

次に、血清亜鉛値の測定が治療に有効であった症例が紹介された。高齢者などに多い褥瘡では、亜鉛と同様に微量元素である鉄や銅の量とそれらの濃度バランスを整えることで、症状が改善した症例が示された。肝硬変の患者では、肝臓での代謝が阻害されることで解毒作用が障害される。そのため、血中アンモニア濃度が上昇し、肝性脳症を発症することがある。TCA回路のアンモニアを尿素に変換する反応では、亜鉛要求性酵素が関与しており、亜鉛を併用投与することで症状が改善した症例が示された。その他にも、腎性貧血の患者に亜鉛を投与することでヘモグロビン濃度が回復した症例やアトピー性皮膚炎で亜鉛投与により症状が改善した症例が示された。

亜鉛欠乏症には亜鉛の補充療法が治療に用いられており、定期的な血清亜鉛値をモニタリングすることが有効であると考えられる。血清亜鉛値は日内変動や検体保存条件の影響を受けるので、測定する際には考慮する必要がある。日常検査において血清亜鉛値を常に測定している施設は少ないと思われるが、亜鉛欠乏症を疑う症例においては、積極的に測定することが有効であると思われる。

今回の講演は、近年増加傾向にある亜鉛欠乏症を見逃さないためにも臨床症状と血清亜鉛値の変動について見直す良い機会となった。

(文責：山本晃司)



埼臨技だよりWeb化のお知らせ (第2号)

先月号のだよりでもご案内したとおり、埼臨技だよりがWeb化へ移行します。今月は埼臨技HPから埼臨技だよりの閲覧方法についてお知らせします。

- ① 埼臨技HPにアクセス。(http://sairingi.com/)
- ② トップページ中央「Web 埼臨技だより」をクリック (丸部分)。



- ③ 最新号から、過去 (2009年～) のだよりもPDF形式で閲覧できます。



**令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第1回 理事会議事録**

日 時：令和5年4月13日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 阿部 松尾 佐瀬
三木 網野 塚原 伊藤(恵)
神嶋 伊藤(隆) 石井 神戸
小林 長岡 久保田 長谷川

(監事) 遠藤

欠 席：(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和5年3月9日～令和5年4月12日)

3月9日(木) 令和4年度第13回理事会：

神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、久保田、長谷川、神戸、石井、小林、遠藤、細谷

3月9日(木) 事業部会議：

猪浦、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)

3月13日(月) 第2回人事委員会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄

3月14日(火) 日臨技精度保証サポート(是正・改善・立入調査) 検討WG：神山

3月16日(木) 令和4年度埼臨技臨時会員総会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、神戸、石井、小林、細谷

3月19日(日) タスクシフト指定講習会
(埼玉013)：

猪浦、濱本、松寄、阿部、長岡、塚原、伊藤(恵)、佐瀬

3月22日(水) 第51回埼玉県医学検査学会第6回
実行委員会：三木

3月23日(木) 令和4年度埼玉県医師会精度管理
講評会：山口、長岡

3月24日(金) 日臨技支部長連絡会議：神山

3月25日(土) 日臨技役員勉強会：神山

3月25日(土) 日臨技理事会：神山

3月25日(土) 佐藤乙一先生を偲ぶ会：神山

3月27日(月) 越谷市精度管理打ち合わせ会議：
神山

3月27日(月) 日臨技精度管理・品質保証委員会：
神山

3月28日(火) 日臨技精度保証施設認定化学・免
疫審査会：神山

3月29日(水) 会計部会：

神山、松岡、石井、神戸、小林

4月12日(水) 業務監査：

神山、松岡、山口、濱本、長澤、松寄、長岡、阿部、塚原、石井、神戸、小林、遠藤、細谷

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 3月13日(月) 第2回人事委員会を開催した。
(別紙資料1)

2) 3月24日(月) 埼玉県理学療法士会に第42回
関東甲信越ブロック理学療法士学会の後援
承諾の回答をした。

3) 3月27日(月) 公益インフォメーションに令
和5年度事業計画、予算書の提出をおこ
なった。

4) 3月30日(木) 越谷市精度管理委員に神山清
志会長を推薦した。

5) 3月31日(金) 役員推薦委員会が開催された。
(別紙資料2)

6) 4月10日(月) 当会から日臨技に厚生労働大
臣表彰を推薦した三名の会員の受賞が決定
した。

猪浦 一人 氏

(埼玉県済生会加須病院)

奈良 豊 氏

(埼玉医科大学総合医療センター)

松岡 優 氏

(埼玉医科大学病院)

- 7) 4月12日(水)業務監査を行った。
- 8) ㈲エッチ・アンド・ティーより会員管理システム年間保守の契約更新について更新継続とすることとした。
- ## 2 総務部
- 1) 3月19日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県013)を国際医療専門学校で開催した。受講者59名
- 2) 4月15日(土)埼臨技だより527号発行予定。
- 3) 4月16日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県014)を国際医療専門学校で開催予定。運営管理者は佐瀬理事。
- 4) 8月19日(土)タスクシフト指定講習会の調整が済み開催の予定。
- ## 3 事業部
- 1) 3月9日(木)事業部会議を開催した。
(別紙資料3)
- 2) 7月28日(金)R5年度新入会員向け研修会開催予定。
講演1: 臨床検査技師会とは?
～日臨技・埼臨技について～
講師: 神山 清志
(一般社団法人 浦和医師会メディアカルセンター)
- 講演2: 先輩技師に聞く
～患者様とのコミュニケーション
生理機能検査、採血業務を通じて～
講師: 関森 なつみ
(自治医科大学附属さいたま医療センター)
- ## 4 学術部
- 1) 埼臨技会誌Vol.69 No.2-3の印刷染みについて、石井印刷に原因の確認、今後の改善対策について確認した。(別紙資料4)
- 2) 生涯教育研修プログラム6・7月分を埼臨技だより4月号に同封予定。
- 3) 5月30日(火)さいたま赤十字病院多目的ホールにて令和5年度理事研究班合同会議開催予定。
- 4) 6月24日(土)開催の生理検査研究班研修会の協賛内容(デモ機貸与)について三役承認とした。
- ## 5 精度保証部 特になし
- ## 6 会計部
- 1) 日臨技より生涯教育推進事業研修会助成金100,000円の入金があった。
- 2) 埼玉県医師会より精度管理事業の入金があった。
- 3) 医学中央雑誌刊行会より2022年分の文献許諾使用料として440円の入金があった。
- 4) 石井印刷に埼臨技会誌Vol.69-No2,3合併号印刷代480,436円、埼臨技だより第526号印刷代165,396円、仕分費25,652円を支払った。
- 5) 3月29日(水)第3回会計部会議を実施した。
(別紙資料5)
- 6) 4月12日(水)会計監査を行った。
- ## 7 精度管理委員会
- 1) 3月23日(木)令和4年度埼玉県医師会精度管理講習会を開催した。
- ## 8 一都八県会長会議 特になし
- ## 9 日臨技関甲信支部 特になし
- ## 10 日臨技 特になし
- ## 11 第51回埼玉県医学検査学会
- 1) 3月22日(水)第6回実行委員会を開催した。
(別紙資料6)
- ## III. 承認事項
- ### 1 事務局
- 1) 会員動向(令和5年度分)
令和5年4月1日現在
会員数 3,450名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 39名)
賛助会員 12社[令和4年度 71社]
承認された。
- 2) 事務職員の昇格について
上記の件について、神山清志会長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 3) 埼臨技永年会員表彰受賞者について
上記の件について、松寄朋子事務局次長より発言があり、審議の結果、承認された。
- ### 2 総務部
- 1) 埼臨技だよりWeb化に伴う変更点について
(別紙資料7)
上記の件について阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、資料提案の通り承認された。
- 2) R5年度会員名簿の発行について
上記の件について阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 3) R5年度定時会員総会会場備品レンタルについて
上記の件について阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、前回の臨時会員総会同様の機材をレンタルすることで承認された。

3 事業部 特になし**4 学術部**

- 1) 遺伝子染色体検査研究班研修会の変更について

講師都合により7月開催予定だった研修会を6月開催としたい。

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 血清検査研究班員退任について

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、血清研究班員1名の退任が承認された。

5 精度保証部 特になし**6 会計部**

- 1) 支払調書、講師料日当等確認書の更新について (別紙資料8)

上記の件について、石井直美会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 令和4年度決算について (別紙資料9)

上記の件について、石井直美会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

7 精度管理委員会 特になし**8 第51回埼玉県医学検査学会**

- 1) 別紙資料6の上程事項について承認いただきたい。

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題**1 事務局**

- 1) 令和5年度定時会員総会議案書について (別紙資料10)

上記の件について、松寄朋子事務局次長より発言があり、審議の結果、可決された。

- 2) 創立70周年記念式典準備委員会の設立について

埼臨技が1953年3月に創立されてから70年が経過した。創立70周年記念式典と記念誌発行について来年度の事業とし、準備委員会を設立したい。

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、可決された。

2 総務部 特になし**3 事業部** 特になし**4 学術部** 特になし**5 精度保証部** 特になし**6 会計部** 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

新型コロナウイルス感染症の流行開始から早くも3年たち、この「だより」が皆様の手元に届くころには、新型コロナウイルス感染症も5類に移行しています。(していますよね?)皆様がいかにお過ごしでしょうか?この3年間はいろいろな規制により、私を含め「楽しむこと」が十分にできなかった方も多いと思われます。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、かつての日常に戻れたら良いと思っています。

通常この時期はGWも終わり、「5月病」を発症する方が多くなりますが、4月に入職した新人の方々や新しい職場へ赴任された方、そしてそうでない方も美しい新緑と、新型コロナウイルス感染症の規制から解放された今を楽しんで、「5月病」を吹き飛ばしていきましょう!

(神嶋 記)

